

地域リーグのサッカークラブチームの経営と 今後の可能性

—アヴェントゥーラ川口をもとに—

本研究の目的は、日本サッカー界における地域リーグ所属クラブの経営実態を明らかにするとともに、なぜ経営規模や知名度で劣る地域クラブがスポンサーやサポーターから継続的な支援を受けているのかを明らかにすることである。

研究対象として、J1 リーグに所属する浦和レッドダイヤモンズと、昨年まで関東リーグに所属し、現在は県一部リーグに所属するアヴェントゥーラ川口を取り上げた。研究方法としては、日本サッカーの歴史やJリーグの発展過程、クラブ経営に関する先行研究をもとにした文献調査に加え、アヴェントゥーラ川口のスポンサー企業、サポーター、クラブ代表に対するヒアリング調査を実施した。

分析の結果、浦和レッズは大規模な事業予算や全国的なブランド力を基盤とし、広告価値や商業価値を重視した経営を行っているのに対し、アヴェントゥーラ川口は限られた経営資源の中で、地域貢献活動や地域イベントへの参加を通じて地域社会との関係性を重視した運営を行っていることが明らかとなった。スポンサーやサポーターは、経済的リターンよりも「地域への貢献」「顔の見える関係」「地域に根ざしたクラブの存在価値」に共感し、支援を継続していることが示された。

以上のことから、地域サッカークラブの経営は厳しい環境に置かれているものの、地域との密接な関係性を構築することで社会的価値を創出し、持続的な支援を得ることが可能であると結論づけた。本研究は、地域スポーツクラブが今後持続可能な経営を行う上で、地域密着型の取り組みが重要な役割を果たすことを示唆するものである。